

とうきょう すくわくプログラム 活動報告書

園名	社会福祉法人村山苑 ひよし保育園
活動日時	R6.5月～3月
クラス	3歳児クラス
年間テーマ	変身

1.活動のテーマ

「変身」（カマキリの飼育）

◎テーマの設定理由（子どもの姿）

・アゲハ蝶やダンゴムシの飼育を機に、園庭にいるカマキリに興味をもった。「育てたい」という強い子どもたちの思いと、飼育の苦労や命の大切さを学んで欲しいと思い設定をした。

3.活動の為に準備した素材や道具、環境の設定

・虫かご ・タブレット ・PC ・虫メガネ ・昆虫図鑑

◎活動の内容

活動中の子どもの姿や声、子ども同士や保育者との関わり・写真



コオロギをカマキリの餌にするのか何度も話し合いを重ねました。

「赤ちゃんコオロギいたの。ママとパパ会えなくなる。かわいそう！」と涙ぐみ力説する子も。でも、大切なカマキリも育てなきゃ・・・どうする？

どちらの意見も尊重するために、餌にする子と育てる子と分けることに決まりま



餌探し！カメムシをあげてみて臭さにみんなで痺れたこともあったね...



クリスマス会の日にお亡くなりにな。子ども達の見解で、お腹いっぱいになるようにと虫の折り紙をプレゼントし、お供えをしました。

※スケジュール計画するのではなく、子どもの発言を拾いながら子ども主体となる保育を継続していた為、活動の日時を記載とする。

- 8月頃 ・カマキリを園庭で見つける。
- ・飼育には生きている虫を与える必要があることを図鑑で調べ、飼育の大変さに気付いてもらう。育てることにする。
- 9月頃 ・散歩先、園庭で虫探しが始める。いろんな虫を知る。
- ・暑さや雨で餌を取りに行けず、代用品をネットで調べる。
- また、家庭にも強力をいただき、餌を頂くことになる。
- ・魚肉ソーセージは食べずに、最終的に、主任から頂いたコウロギを頂く。しかし、コウロギにも愛着が湧き、育てるのか、餌にするのか命について話し合う。
- 12月下旬 ・カマキリが死んでしまう。

5.活動振り返り〈振り返りによって得た大人の気づき〉

- ・アゲハ蝶での飼育を機に、図鑑などで調べる習慣が付き始めており、意欲的に飼育を楽しんでいた。
- ・たくさんの虫に触れることで、夏、冬はどこに虫がいるのかと疑問を持ち、探したり、どうしたら虫を呼び込めるかという話になった。最終的に、園内に畑づくりをして虫を呼び込もう、という話にも繋がった。子ども達の「虫を飼いたい」「やりたい」という強い思いがいろんな活動に繋がり、広がっていった。
- ・カマキリの餌を採取する際、育てる生き物、餌にする生き物と子どもの中での線引きがなされていた。例えどんな小さな命でも、尊い命であることを伝えきれなかったことが課題である。また人間も命を頂き生かされている事に気付けるよう、今後の活動に繋げていきたい。
- ・命の大切さや、生きるにも命を頂いていることを、虫の飼育で子どもたちなりに感じ取っていた。話し合いも重ね、大切に育てたからこそ、カマキリの死は子ども達にとって衝撃的だったようだ。飼育の中で、命を労ろうとする子どもたちの素直な気持ちが見れたことも心の大きな成長を感じた。